

第3回松永駅周辺活性化協議会(議事録)

| | |
|-----|---|
| 日時 | 2025年(令和7年)2月12日(水) 19:00~20:30 |
| 場所 | 福山市西部市民センター5階多目的室 |
| 出席者 | (座長) 玉井由樹 ※敬称略 (委員) 松本陵磨、横山典好、岡田典子、島田清豪、小川一佳、坂田英幸、 遠部康人、友田聡 (オブザーバー) JR西日本(尾道駅)、松永高校、福山市立大学都市経営学部 (事務局) 福山商工会議所松永支所長、福山市松永支所長、松永地域振興課長、 松永地域振興課地域づくり担当次長 |

- 1 開会
 - 2 挨拶(松永支所長)
 - 3 事務局説明
松永駅周辺にぎわい再生ビジョン(案)について
 - 4 意見交換 ○委員、■事務局
- "THE MATSUNAGA"の表記について、地名に定冠詞を付ける場合は、高級感や特別な地域性を備えたブランド化された集合エリアとして確立される必要があり、その分ハードルは高くなる。
- ビジョンの内容については、よく練られていると思う。実現するためには若い世代の意見や行動力が必要。協議会にも若い人が入ったらいいのでは。
- ビジョン(案)には、松永未来会議やワークショップに参加した大学生・高校生の意見も取り入れている。
- 松永未来会議では若い世代が楽しんで話をしている。目標は遠いが、若い世代の志があれば、お金も使わず、効率よく確実な活性化につながると思う。気になった点は、店があればにぎわいにつながるという感覚が強すぎる。
- 若い世代の意見を実現していかなければ。スーパーを中心に近隣エリアの一体開発を進める。見栄えが変わり、人が集うことに繋がると思う。事業者のできることを、行政と意見交換をしながら形にしていけたら。
- 担い手、若い世代をどうバックアップするか、次のステップとして考える必要がある。例えば、北口のアーケードに店を出そうという人に、資金面の支援やクラウドファンディング等も考えられる。小さなコミュニティつながりが大切。松永の企業にどう賛同してもらうか。
- 大きい目標を共通でもち、その下に小さいグループが目標をもって活動し具体的に動くことで自分事になると思う。「にぎわい再生に向けた5つの柱」のうち「03 新たなチャレンジを地域で育む"まち" THE MATSUNAGA」がすごく良いと思うが、新しいだ

けでなく、なつかしさもある松永、今ある個人商店、事業所、学校が今以上にパワーアップし、少し変わってきてその上新しいチャレンジを地域で育むことができれば、大変だけど最高だと思う。

○以前は駅前商店街や大正通商店街があったが、今はない。少人数でいいので目的を持ったグループで活動し、そのグループ同士が繋がっていく。発想や企画などは若い世代が中心になって考えてもらえたらいい。

○松永高校では、総合的な探求の時間で3年間取り組んでいる。2年生の時に地域探究を行っている。ここで議論されている内容を深められるような事業内容にしていきたい。教育現場では小中高どの年代でも地域に関わる教育内容がある。総合的な探求の時間でやることと実際の生活がより密接に結びつくと思えば生徒が理解していくと思う。

○一度何かやってみないと課題が出てこない。チャレンジをしながら解決できるものは解決していくようにした方がいい。北口については明るさ、照明器具が欲しい。店も出しにくいだろうし、治安の確保のためにも。

■歩道空間、道路空間の整備について、しっかりと議論を深めたうえで着手する必要がある。建設部門とも一緒に考えていく。

○はきもの資料館は、日本でも有数の施設であり保存していきたい。活用について、行政と色々相談をしている。また、地域の産業を後世に残していくために、空店舗を利用して販売することはできないか。

○ビジョン内容の取捨選択及び実行優先順位の確立が求められる。若い世代の意見も非常に大切だと思うが、理想論でしかない。

○20年後の目標年次を意識してなかった。的を絞る、集中していかないと形にできない。事業者としてどのように考えていくのが良いのか。

○20年後までのロードマップが必要。その上で優先順位をつけて具体的に考えていかないと、5年後も見えてこない。

○「にぎわい再生に向けた5つの柱」とあるが、「5つの構成要素」だと思う。このビジョンに向かってどう皆で頑張っていくのか、行動規範が必要。5つ提案する。1つ目は「段階的な取り組み成長モデル」。2つ目は「できる事をできるところからやる」。3つ目は「総力で取り組む」。4つ目が「公共インフラとか民間投資が動き出す。」5つ目は「松永のエリアの特徴を活かす」。

○失敗してもいいからやってみよう、ということがすごく大事。ミスしても、その時に我々が応援できることはする。この場で若い世代が行動を起こし、5年後にどうなっているかを話し合う。そのために今何をしないといけないか、と循環して議論ができるのではないか。それにはチャレンジ精神が必要。

○そこで一つ提案だが、この協議会または行政で基金ができないか。自分の持っているものを、自分の所有でありながら、パブリック、すなわち公共のために使う「プライベートパブリック」というマインドセットに基づいて、基金からお金を出して、失敗してもいい

からチャレンジしてやってみよう。

- 一つでも二つでもいいから方針を決める。それに向けて取り組んでみる。
- 未来会議等が出た意見を聞くことで我々が意識を変えないといけない。未来会議等色々な場に出て、繋がりをもつところから始まると思う。
- 松永駅の活用、イベントの実施等、一度全員で何かを作ってみては。
- 若い世代の人や外部からの起業で活性化となった際に、資金面での支援や事業計画の支援ができると思う。
- 若い世代と一緒に汗をかく。そして、知恵を絞り出す。
- 仮にこの協議会でお金が集められたとしてどこかの空き店舗を借り、それを若い世代に貸す。期限を設けてお客さんを確保してもらい、期限後には営業していくという方法もある。チャンスを与えるものを提供できれば。
- 若い世代の意見を具現化を目指していきたい。

5 閉会